

リレー
エッセイ

テーマを投げる職員もテーマを受け取る職員も誰から何のテーマが来るのか編集委員からのオーダーがあって初めて知る本コーナー。職員が知らないあの職員の内側をのぞくと、ひどい人気です。

「あの人に一言申す!!」(山本職員からのリレーテーマ)

年末年始にかけて音楽番組を目にする機会が多かった。歳のせいと思うが、出てくるアイドルの顔は皆同じように見え、歌はどれも同じようなことを言い、同じように聴こえる。「大人は何で懐メロなんて聴くんだろう?」と思っていたが



「やっぱり自分が昔聞いていた歌はいいな～」と思う今の自分。子どもの頃、「1年は早いね。あつという間だね」という大人同士の会話はあまり現実味がなく「え～、そうかな?1年で結構長いと思うけど」と思っていたが今は歳を重ねるごとに1日、1週間、1ヶ月、1年があつという間に過ぎて行ってしまう。がむしゃらに働いた20代の時は、そうじゃない人たちに疑問や怒りをぶつけたこともあった。昔の自分に一言申す!「大人になってとか時や経験を経てとか、その立場になってみないと初めて分かることがたくさんあるよ」ということ。そしてその時の皆さん、ごめんなさい(´_`)

はなれ所長 金子友紀

「冬の思い出」(柳澤職員からのリレーテーマ)

「冬の思い出」というと、すぐに思い出すのが今年の冬です。昨年と同様にきらで農耕班を担当させていただき、寒い雪の日に大根を収穫したり、枯れかかっている苺の栽培をした事です。大根は、食べきれないくらい利用者の方と収穫ができ大成功でしたが苺の方は、春に花が一輪しかつかず失敗でした。分からない事が多かったにもかかわらず自分なりの方法で苺なんて成るもんだと思いつみながら栽培していました。

昨年、花がほとんどつかなかった理由をインターネットで調べてみると分かったもので3点見つかりました。冬の寒さにより花芽がつくという事と、苗を畑に定植するのは寒くなる11月頃が良いという事と、定植する畑は腐葉土のたい肥や牛ふんたい肥は向かないという事でした。この冬は、分かった事を栽培に活かして春豊作になることを期待し、利用者の方と水やりに励んでいます。

きら 生活支援員 岡本隆

今回は小林事務長、ららん

飯澤職員へリレーをつなぎます
お楽しみに!



いとるらいふ 通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日: 2017年1月

1月も半ばとなりましたが、改めまして新年明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。今年のお正月は気候も良く、例年稀にみる暖かなお正月でしたね。皆様はどのような時間を過ごされましたでしょうか? 新年最初のりとるらいふ通信は通常よりもページを増やし、特大号でお届けします!!



新春企画!!

「2017年、私たちの目標!!」

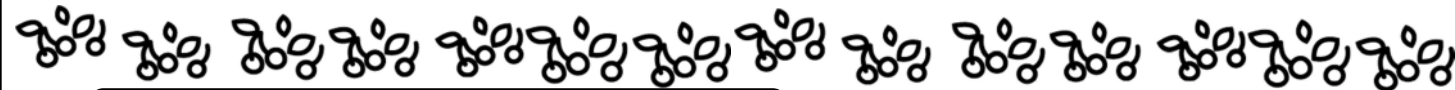
新年最初の通信は、2017年の目標ややってみたいことなど、各職員が書初めに挑戦してもらいました。若干、個人のカラードが出ていますが、これもご愛嬌♡今年1年の目標に向かって頑張りましょう!

いとるの家(きら・らく・看護)

前向きな言葉や強い意志を示す文字が多い、チーム「いとるの家」。
彩り豊かな職員たちで今年もパワー全開頑張ります!!
皆様よろしくお願いします。



2017



いとるの新しいなかまたち~新入職員ご紹介~

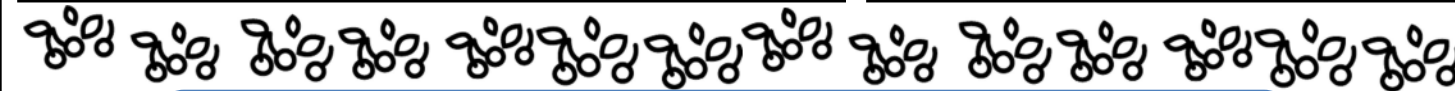


あきもと みつき
秋元 光希

初めまして。秋元です。
糸魚川市出身です。
専門学校卒業後、親戚の介護をしていて就職して働くのは初めてです。
得意なことはお菓子を作ることです。
この趣味が活かせるといいなと思います。この分野での経験・知識はあまりありませんが、精一杯やっていきたいと思えます。皆様ご指導のほどよろしくお願い致します。

編集後記

新春企画「書初め大会」はいかがでしたでしょうか? 恥ずかしながら、初めて見た四字熟語を調べてみて「こんな言葉があるんだな」と勉強になりましたし、日本語や漢字には深い意味があり、改めてその文字や言葉のパワーを感じました。
さて、松田係長の書に貼りつけてある「ダムカード」なるもの、皆さんはご存知ですか?
国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムでは、ダムのことをより知ってもらうため「ダムダムを訪問した方に配布しているのだそうです。皆さん、色々なことを教えて頂き、感謝!です。



発行者: 社会福祉法人みんなできる 障害福祉事業部りとるらいふ
通信に関するお問い合わせ先: 事業部代表 TEL025-542-0170 (担当: 金子)

サンタさんがやって来た！～ららの活動より～

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。
さて、今回は12月に行われたイベントの様子をご紹介します！12月の一大イベントといえばクリスマスですね♪皆様はどのようにクリスマスをお過ごしされたのでしょうか…？
ららでは、12月24日と25日にクリスマスイベントを行いました（＾＾）

～ 12.24(土)スタッフコンサート ～

その名の通り、ららスタッフが歌って踊る！コンサートです。
内容は絵本の読み聞かせや歌、ダンスなど盛りだくさん。
まずはじめは絵本の読み聞かせからスタート！今回はクリスマスのお話を含む3冊の本をみんなに聞いてもらいました。
読み聞かせの中でスタッフと子どもたちとのやりとりもあり、とても温かい雰囲気でした。
絵本の読み聞かせの後は、歌の時間。お馴染みのクリスマスソング3曲をスタッフの伴奏のもと、みんなで歌いました。
歌詞カードとタンバリンや鈴などの楽器を手に、リズムにのりながら楽しみました♪
そして、ダンスで今回踊ったのはAKB48の“恋するフォーチュンクッキー”。
きっとみなさんも1度は耳にしたことのある曲ですね◎
みんなとっても上手に踊っていました。



～ 12.25(日)クリスマスパーティー ～

ららにてクリスマスパーティーを開催しました！

まず午前中はクリスマスケーキ作り。いくつかの班にわかれ、それぞれが協力して進めていきます。生クリームと果物たっぷりのおいしいケーキができました♪
お昼はオードブルとおにぎりやサンドイッチ。
オードブルは、からあげやウィンナーなどみんなが好きなおかずがいっぱいでした。みんなの笑顔が印象的でした◎

そして午後からはH&Hさんに来ていただき、H&Hコンサートを開催。みんな楽器でリズムを取ったり、歌を口ずさんだりとノリノリ♪

クリスマスソングやお馴染みの名曲を披露してくださり、とても盛り上がりました！



また、この2日間ともららにサンタさんが来てくれ、みんなにプレゼントをくれました。
24日にはサンタさんへの質問タイムもあり、とても盛り上がりました！
今年もとっても楽しいクリスマスになりました*

サンタさんが掃除？！ ～きらの活動より～



きらでは、はなれから委託を受けて、はなれ建屋内の清掃業務を行わせていただいています。
2階のショートステイの空間を中心に、毎日きら清掃班が業務に励んでいます。
そんな中で、ご利用者にも楽しんでいただき、委託元のはなれ職員にも喜んで

いただけるよう、このクリスマス期間サンタクロースの衣装をまっとうお仕事を行いました。

意外にも清掃班の皆さんがサンタの衣装がお似合いで、はなれ職員からも大好評をいただくことができました。

ほんの少しの工夫でいつもの清掃業務が変わって見え、付加価値がつくことをきら職員も学ばせていただくことができました。

これからもちょっとしたアイデアで喜ばれ、選んでいただけるお仕事をしたいと思っています。

にこ3年目にあたって ～にこの活動より～

新年あけましておめでとうございます。にこ渡迎です。

今年はなかなか雪も降らず、降ってもすぐに溶けてしまいますね。

大人達にとっては良いのですが、子ども達は中々降らない雪を待ち遠しく思っていることでしょう。

写真は雪が少し降った時に小学生チームで頑張って作ってくれた雪だるま♪ようやく冬らしい活動写真が撮れました。

にこは今年度、3年目を迎え、また年が変わりまして1月より少人数での活動プログラムを取り入れるなど、色々な活動に挑戦してい

こうと考えています。

今までと少し違った活動の中で、集団で過ごせる力を身に付け、少しでも

友達と過ごせる喜びや、共に一つのことをやり遂げる達成感を感じてい

だけたらと思います。

本年もよろしくお願いいたします。



痩せていく日本社会の今後について、思うこと。

社会福祉法人みんなできる
副理事長 片桐公彦

新年あけましておめでとうございます。昨年関係者の皆様には大変お世話になりました。このコラムも毎月締め切りに追われながらなんとか続けていくことができました。時々「読んでますよ」という言葉に支えられながら書き続けています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は日本国内海外で大きな出来事が続きました。海外ではイギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領誕生、パナマ文書の流出、キューバのカストロ前議長死亡など大きなニュースが相次ぎました。日本国内でいいますと、熊本地震があり、東京都知事選では小池百合子知事が誕生しました。オバマ大統領の広島訪問はテレビに釘付けになりましたし、我が新潟県でいえば米山隆一知事の誕生も大きなできごとでした。そして、何よりも障害福祉の世界では神奈川県相模原市で発生した「やまゆり園事件」は忘れることのできない大きな事件でした。入所施設で暮らす障害のある方々19名を殺害し、職員・入所者合わせて27名が重軽傷を負いました。「重い障害のある者は生きていても仕方がない」という信じられない思想が背景にあったことも衝撃的でしたが、平成に入っての最大規模の殺人の犯行現場が障害者施設であることに我々の心は痛みました。改めて、お亡くなりなされた方々とそのご家族にはお悔やみ申し上げます。同時に無事でいてくれた方々の心と体の回復を祈るばかりです。

様々なできごとが2016年もありましたが、私にとって印象に残ったのは昨年12月に大手ファミリーレストランチェーンの「すかいらーく」が国内の1360店舗について、深夜営業を大幅に縮小する方針が報道された件です。また「ロイヤルホスト」も今月から24時間営業の取りやめを発表しています。私はこの出来事はやや大げさにいえば日本の人口減少がいよいよ目に見える形で到来したのだと感じました。日本が痩せていっていることを実感し、縮小の道へと大きく踏み込んでいったのだ。このことは我々の生活の中においてありとあらゆる場面に影響を及ぼし、似たような現象が発生すると踏んでいます。

日本は戦後の高度経済成長を経て現在のシステムを作り上げてきました。大量生産する働き手がいて、それを消費する需要と供給の強い関係が日本という国の経済成長を押し上げてきました。日本の総人口の減少は2005年くらいから始まっています。2016年については新生児の誕生が100万人を割り込みました。第一次ベビーブームの最高新生児数は1949年の269万人、第二次ベビーブームでは1973年の209万人ですからピーク時の半分以下です。さらに高齢者がどんどん増えていき、介護や医療にかかる費用や人材はそちらに吸収されていきます。新しい文化やトレンドを生み出し、ダイナミックな消費をする若者は減っていき、同時に人口全体が減少していき、サービスを提供する顧客の数も減っていきます。こうした現象をいち早く汲み取った企業の多くはグローバル化の波を利用して海外の消費に打って出ました。海外の比較的安い労働力や特に中国をはじめとした海外の消費に支えられてきたものの、それもいよいよ手詰まり感がでました。書店では資本主義の崩壊や終焉を説く本が並びました。私も数冊手に取って見ましたが、資本主義のシステムは右肩上がり前提とした仕組みですので、耕す土壌がなくなった時、そのシステムが意味をなさなくなることは何となく私にも理解できます。こうした背景の中で「痩せていく日本」に直面した企業の一部がいち早く目に見える形で「深夜営業の廃止」に踏み切ったのだと思うのです。これは競争レースから降りた、という意味ではなく、別のルールや手法を取り入れ、新たな知恵や工夫を日本という社会が選択しなければならぬことを意味しているのではないかと私は思います。

逆に言えば、此の期に及んで右肩上がりや順当な売り上げや利益の成長を選択するだけの組織はもたないではないかとこの年末に起きたファミリーレストランチェーンのニュースを見て感じました。もしそれでも右肩上がり神話を信じ続けるのであれば、少ない人間でさらなる成果を求められるのですから、労働強化をするしかありません。優秀な人材だけを求め、短期間で成果を上げられる人材しか生き残れないことになり、そうなるとおそらく収入面だけでなく様々な格差が更に生まれ、拡大していきます。ですがその手法はもはや通用しなくなってきていることは「電通事件」などを通じて皆さんご存知の通りだと思います。

電通事件のことで触れるとするならば、気になっていることがあります。「サービスの過剰品質化」です。電通は企業体質が大学を卒業したばかりの女性を自殺に追いやったと報道されていますが、私はそのことに少々疑問点を感じています。広告代理店にとって顧客は「神」だとされています。まさに「お客様は神様です」の世界です。CMの撮り直しを急遽顧客側から要求されたり「あの女優の帽子の色が気

くない」といったリクエストに応えようと努力したり、「明日の朝までに何とかして」と勤務時間外に連絡が入ったりするなどの無茶なクライアントの要求が背景にあったことを私たちはあまり気に留めません。電通の「鬼十則」が批判を浴びていますが、なぜあの企業が「鬼十則」の考え方に至り、それが長い期間を経て大事にされてきたかの背景を見つめることも同時に行なっていくべきだと考えています。だとしたときに、電通をそのような企業体質にしていた責任は企業側だけの一方的なものであったかを考えます。電話やメールの向こうにいる誰かは自分と同じ人間であり、愛する家族がいたり、半年も前から計画している旅行を楽しみに金曜日を過ごしている誰かだったり、家族に介護を必要とする人や病人を抱えているかもしれないし、様々な事情を抱えながらこの社会の中で生きている一人の人間に過ぎないのだという感情の欠落があったのではないかと思うのです。それについて過剰な競争にやすやすと乗り込み、終わることのない異常なレースに参加した企業体質が今、電通に問われていますが、私自身に引きつけて考えると、私だって同じようなことを職員に課していた覚えがないわけではありません。また一人の消費者として「明日でもよさそうなら」に「何とかお願いしますよ」「お金払ってるんだから」と迫ったサービスのユーザーとしての経験もあります（少なからず多くの人も似たような経験をしたことがあると思います）。こうした「過剰品質」について我々は立ち止まって、それは現代に必要なことなのかどうかを確認する時期にきているようにも思います。

そのことを考える大きな要因として「日本の深刻な人口減」を踏まえておく必要があります。人口減が深刻化するのには2025年からと言われています。しかし上越という地域はすでに先行して人口減が始まっていると肌で感じています。明らかに集まらない人材。求人をかけてもかけても集まりません。介護業界の人手不足は慢性的なことであり、今に始まったことではないと思われしますが、その雰囲気とここ1～2年の雰囲気は明らかに違います。フランスの歴史人類学者のエマニュエル・トッドは人口減少の影響について「じわじわではなく、ある日、突然やってくる」と述べています。そう、これは単なる「人手不足」という業界用語を超えた突然変異現象です。こうして痩せていく日本の実態を、私はまさに今の瞬間に体感し、渦中にいるのです。

我々の仕事は地域生活支援です。暮らしを支えるのに「ショートステイの深夜営業を辞めます」とはいえません。（言いませんよ。勿論）そんな中でどのような知恵を出して障害のある方々の暮らしを支え、ご本人が望む暮らしを実現し、ご家族に安心を提供し、職員のワークライフバランスや給与面の保証をしていくか。このシステム作りは困難を極めますが、それでもやるしかないと思います。最大限の努力を払うし、バスターを尽くします。でも支え手だけの努力だけではこうした状況乗り越えていくことはとても難しいことまた事実です。サービスの受け手や他のステークホルダーの協力も必要です。

私はこの年末、障害のみならず高齢部門や児童部門のサービス提供がどのようにしたら持続可能な仕組みになるのかを考えてきました。気合いや根性ではなく、標準化された仕組みとはどういうものか。特定の個人やクラスに依存するのではなく、長時間労働を前提しない、サービスの提供側も受け手も幸福になれる調和のとれたシステムとはどのようなものかを考えました。

私が考えているのは、介護やケアに強くAI（人工知能）技術やIoT（インターネットオブシングス）技術を組み込むことではないかということです。ビッグデータで介護記録をつけていくとその人にとってベターな支援方法が導かれていくとか、様々な機器がインターネットに繋がり、データに基づいて体位交換や排泄の介助についてオートメーションで行われる技術が発展していくとかそういうことがあり得ると思います。

「介護は手仕事」という概念を大きく転換させる時代が間もなくやってくると思います。それは、手書きだったアニメーション業界が圧倒的なアニメーター不足の中、CGを活用した技術が登場してアニメーション業界の価値観を大きく変えたように、あるいはオランダが農業をスマートアグリ化して最小限の人手で最高に美味しいトマトを生産したように、「多くの人手」を前提としない社会のあり様を受け入れる準備が必要な時代にもはや地方は突入したのだという自覚が、私たちに求められているのかもしれない。